

神戸大学ソフトテニス部の沿革について

緑蔭クラブ（神戸大学ソフトテニス部OB・OG会）
創部 120 周年記念誌委員会

○ 神戸高等商業学校庭球部の創設

神戸高商学友会報第 1 号に、学友会の発会式を 1903（明治 36）年 6 月 20 日に開いた記述がある。同号に掲載された運動部細則に「運動ノ主ナル種類ハ庭球及ビ野球ノ二種トシ」、同年度予算表に「Aコート用庭球費」とあることから当部は学友会発会式の日を創部の時としている。

○ 明治・大正期の学校の庭球部は軟式庭球

明治の初めに外国から「テニス」が入ってきたが、明治 16 年頃には外国から持ち込まれたボールが消耗、破損、紛失した。輸入品のフェルトのボールは入手するのが難しく、国内で製造するにも技術的に困難だったため、代用品として女子の手まり用のゴムボールを使用する軟式庭球が明治 17 年に東京高等師範学校（現筑波大学）で始まり、その卒業生が全国の中学校の教師になったことから日本全国に広まった。

—「日本庭球史 軟庭百年」（※） 昭和 60 年 日本軟式庭球連盟発刊から—

（※）「日本庭球史 軟庭百年」の編著者は本学 1 回生の表孟宏氏で、同氏は兵庫県ソフトテニス連盟会長、日本学生ソフトテニス連盟会長、日本ソフトテニス連盟会長を歴任された。

○ 神戸高商の対外試合

最初の対外試合は、明治 37 年秋で、兵庫県御影師範学校と行い、大敗した。

翌 38 年 5 月に岡山医学専門学校（現岡山大学）と行ったが、これも大敗した。

これらの学校に雪辱するため、猛練習を積み、同年の秋には、第三高等学校（現京都大学）、大阪高等商業学校（現大阪公立大学）、御影師範に勝ち、関西の覇者となった。

明治 38 年に大阪高商、翌 39 年には東京高等商業学校（現一橋大学）と定期戦の約を結んでいる。

明治 39 年春、上京して東京高師、慶應義塾大学、早稲田大学、東京高商と試合をしたが、大敗した。この頃は関東と関西のテニスの実力の差が歴然としていた。

しかし、明治 43 年に初めて早稲田に勝利し、45 年には東京高商に勝利した。

大正 9 年には、夏季休暇を利用して満州、朝鮮に遠征し、7 勝 2 敗無勝負（日没中止）1 という好成績を収めた。

○ 庭球部の「硬球」への転向

大正 9 年に東京高商出身の清水善造氏がウィンブルドンでセミファイナルまで勝ち進み敗れたが、その試合も白熱したものだった。また、同年、日本はデ杯に初めて参加し、チャレンジ・ラウンドに進出するという偉業を成し遂げた。

これに影響された全国の主な大学・専門学校の庭球部が「硬球」に転向した。

—「日本庭球史 軟庭百年」から—

神戸高商庭球部も大正 10 年 4 月 1 日から「硬球」に転向した。

○ 昭和 9 年に「軟式庭球部」が復活（神戸商業大学）

昭和 8 年まで神戸商業大学では、庭球部は硬式を指し、軟式は存在していなかったところ、神戸商大 6 期生たちがまとまって「軟式庭球部」を立ち上げ、当時日本一の関西学院大学と対戦し、ここに復活した。

また、戦争により中断していた神戸経済大学「軟式庭球部」は昭和 21 年夏に再開した。

○ 神戸大学軟式庭球部の創設と黄金時代

昭和 24 年、神戸大学の発足と同時に軟式庭球部が創設され、神戸経済大学と兵庫師範学校のクラブが統合された形でスタートした。

服部・福本組がインカレ男子個人戦 3 位、西日本学生選手権優勝など輝かしい成績を収め、東西各 10 ペア（20 人）が出場する東西対抗に本学から 5 人出場し、西軍の勝利に貢献した。

翌 25 年には創設された関西六大学リーグで春・秋連続優勝を果たすとともに、大崎・福本組が天皇杯 3 位、第 1 回近畿選手権（一般）で優勝し、この年も東西対抗に 5 人選出された。

昭和 34 年にスタートした関西学生リーグ戦では男女とも最初 2 部であったが、35 年春から男子は 1 部に、女子は同年秋から 1 部になった。

昭和 36 年秋に男子は 1 部 2 位、女子は 1 部優勝とこれまでの最高の成績を残している。

また、昭和 35 年の西日本学生団体戦で女子が優勝、延原・山路組が 35 年、36 年女子ダブルスで 2 連勝した。

○ 学園紛争と部内混乱の時期

昭和 43 年から 44 年にかけての全国的な学園紛争が本学にも及び、その余波を受けて我が部でも意見の対立から何度も何度もミーティングをしたが、結局、主将が辞任するという混乱が生じた。

○ インカレ団体で 3 位

昭和 57 年のインカレ男子団体戦で津乗・古賀組が準々決勝の中京大学戦で相手 3 組を倒し、3 位となった。

なお、津乗選手は昭和 59 年西日本学生シングルスで優勝し、卒業後、昭和 60 年の鳥取国体で優勝した兵庫県成年男子チームの一員で、長くナショナルチームに在籍し、平成 2 年の北京アジア大会で個人戦 3 位に輝いている。

○ 関西六大学リーグ戦優勝と王座獲得

昭和 63 年の春季関西六大学リーグ戦で、創設された昭和 25 年以来 38 年ぶりに優勝した。

平成 4 年の秋季関西六大学リーグ戦では、全勝で 4 度目の優勝を果たし、東京六大学との東西六大学王座決定戦に臨み、慶應義塾大学との最終戦までもつれた試合に勝利し、王座を獲得した。

○ 「軟式庭球」の名称が「ソフトテニス」に

海外でも競技人口が増え、また、国際化時代にあわせるため、名称が平成 4 年 4 月 1 日から「ソフトテニス」に変更され、これを受け、「神戸大学ソフトテニス部」となった。

○ インカレ個人で 3 位

平成 9 年のインカレ男子個人戦で西村・廣畑組が昭和 24 年以来となる 3 位に輝いた。

○ 部員の減少時期

平成 9 年頃から男子の部員が減少し、それにつれて関西学生リーグ戦も一時 6 部まで下がった時期があった。

女子も平成 22 年には部員が 2 名となり、5 部 B まで下がった。

○ 令和 5 年 11 月現在の状況

部員数：男子 20 名、女子 7 名

関西学生リーグ戦：男子 3 部、女子 3 部

<参考 関西学生リーグ戦：男子 9 部制、女子 9 部制>

以 上